

棗地区の誇り

わたしたちの心のふるさと「朝倉山」



「朝倉山」は高さ約173m。棗地区の中央に位置し、頂上からの眺めは日本海を一望できる。戦国時代には朝倉義景の一乗谷奉行衆の一人、朝倉玄蕃助景連という武将が頂上に居館を築いて一向一揆に備え、太平洋戦争中の昭和16年には防空監視哨が設けられ棗村や三国町の人々が海や空の監視を続けた。また、居館跡からは経筒が発見され、納められていた経巻は当時の仏教思想に関する貴重な資料として棗公民館に保管されている。棗の歴史をふりかえり、将来の棗について語り合える場所として親しまれている山である。



山頂まで歩いて30~40分を要するが、近年間伐材運送のために車道が整備され、歩き易く、マイカーでも登れる身近な山となっている。春・秋にはまちづくり団体である「自然王国なつめ」が草刈りや枝打ちの作業を行っている。



平成25年、頂上に設置されていた展望台に、鐘を取り付けて全国にその愛称を募集、地元中学生の『棗鈴』が選ばれた。毎年、住民あがての朝倉山登山企画に間伐材の木工体験などを取り入れて山の恵みを子ども達に伝える取組を実施している。



まちづくり組織「自然王国なつめ」代表
湯口 英一さん

地元で製材業を営む傍ら、地域の活性化や青少年教育に熱心に取り組んでいる。「特に朝倉山の整備や活用には製材のキャリアを生かして関わっています」と話す。「棗の良さを誇れるように」との思いがその活動を支えている。

棗公民館

住 所／福井市石橋町4-14
電 話／0776-85-1495
交通機関／京福バス「棗農協前」
バス停から徒歩3分